2

確かな学力の向上

(1) 教育内容の充実

- ① 少人数学級・少人数指導の充実
- 少人数学級・少人数指導

子ども一人一人の個性に応じたきめ細かな指導を行うため、少人数学級や少人数指導を実施している。

- 具体的な取組
 - 少人数学級
 - ア 1学級の子どもの数の上限を40人より少なくする 少人数学級を実施する。
 - ※ 小学校1年生の学級編制の標準を35人に引き下 げ、35人以下学級を推進すること等の法律が改正 され、平成23年度から全国的に実施されている。
 - イ 平成15年度から35人学級(1学級の子どもの数の上限が35人)を段階的に導入し、現在では、小学校1~4年生と中学校1年生の全学級で35人学級を実施している。

<35人学級の導入時期>

学 年	導入時期
小学校1年	平成15年度
小学校2年	平成16年度
小学校3年	平成18年度
小学校4年	平成19年度
中学校1年	平成21年度

- ※ 小学校1・2年については、県下全小学校で35人学級を実施
- 少人数指導
- ア 1つの学級の授業を複数の教師が行ったり(ティーム・ティーチング)、1つの学級を複数 に分けて各々の教師が授業を行ったりする。
- イ 公開授業を実施するほか、「時間・空間・仲間」を効果的に生かした少人数指導における指導法の研究に取り組み、共有化を図る。また、広報紙やホームページの動画配信等を通し、多くの教職員が様々な場で学べるようにする。
- ウ 平成26年度から小学校、中学校で少人数指導の研究モデル校を指定し、指導方法工夫改善加配の教師を活用した少人数指導法の実践研究を実施しており、平成27年度からは新たに関係課長等からなる会議において、学力向上の観点から検証していく。

② 言語活動の充実

思考力・判断力・表現力を育成するために、国語科だけでなく、各教科等において言語活動を充 実させ、言語能力の向上に努める。

そのために、次のような視点にたち、具体的な取り組みを進めていく。

- ・伝え合うことを通して学び合い、高め合うことができる学習活動の設定
- ・言語活動の基礎となる能力の育成を重視した国語科授業の推進
- ・各教科等における教科目標達成のための手段としての言語活動の位置付けと、指導の充実のため の年間指導計画の作成
- ・学校生活全体における言語環境の整備
- ・学校、家庭、地域を通じた読書活動の推進と読書習慣の確立
- ・情報センターとしての学校図書館の充実と授業における積極的な活用

③ 日本語力の向上:確かな日本語力を育む「日本語大好き!」

児童生徒に伝統文化・日本語の美しさ等にふれる機会を通して、日本語力(言葉の力)の育成を図るために、平成27年度から日本語に関わる職業に就く講師を招聘し、実技指導や講話などを行う。

<平成27年度 実施予定>

実施予定校 小学校18校 中学校4校 実施予定講師 落語家、絵本作家、アナウンサー

④ 理数教育の充実

理科や算数・数学などを学ぶことの意義や楽しさを実感させ、基礎的・基本的な学習内容の習得と、思考力・判断力・表現力等を育てるための活用に向けて、授業等の改善に努める。

そのために、次のような視点で具体的な取組を進めていく。

- ・導入から結果・考察、結論まで、子どもの思考がつながる授業の推進
- ・観察・実験等の体験的な活動の充実による、わかる授業の推進
- ・比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用 して説明する。
- ・仮説や予想を立てて、観察・実験を行い、その結果を考察し、表現する。
- ・「ものづくり」を通したり、「日常生活」と関連させたりする授業の推進
- ・理科実験事故防止講習会等の研修の充実(熊本大学教育学部との連携等)

⑤ 学力向上支援員派遣事業

児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、平成25年度から学力向上支援 員を派遣し、本市小学生の学力向上をめざしている。

〇 取組内容

平成27年度、小学校の3、4年生の算数の授業に、3人の退職教員を「学力向上支援員」として派遣し、授業等に参加し、児童一人一人を直接支援していく。

- 主な支援内容
 - ・授業における児童への学習支援
 - ・学習習慣等の課題検証
 - ・学級及び学年の学力向上策支援
 - 教員の授業力向上に関する支援
- ⑥ 「学びノート」の活用と「学びノート教室」の開催 平成14年度から実施された学習指導要領を受け、 本市では、平成16年度から基礎学力の充実を図る ために、ぜひ身に付けてほしい基礎・基本の問題集 「学びノート」を作成している。

平成20年3月に告示された新学習指導要領においても、児童生徒に「生きる力」を育成するという基





小学校学びノート

本理念を大切にしながら、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をバランスよく育んでいくことが重視されており、基礎学力の充実に役立てるために学びノートの改訂を重ねている。(平成26年度に小学校、平成24年度に中学校を全面改訂。)

「学びノート」には、子どもたちに習得させたい基本的な問題を多数掲載するとともに、答えや

解説も掲載しており、授業でも、自学自習でも活用することができるようにしている。特に小学校

の国語・算数については、学びノートを印刷製本し、 全児童に1冊ずつ配布して、基礎・基本の充実のため に活用しやすくしている。なお、中学校には、今まで のDVDに加え、学校に冊子を1冊ずつ配布し、活用 の向上に努めている。

平成18年度からは、全小学校において、放課後の時間を活用し、3年生以上の希望者を対象とした「学びノート教室」を開催している。各小学校に学びノート教室サポーターを配置し、「学びノート」の活用を通して、学ぶ意欲の向上や学びの習慣化を目指し、子どもたちの基礎学力の定着を図るようにしている。



学びノート教室での子どもたちの様子

⑦ 教科書採択

教科書の採択とは、学校で使用する教科書を決定することである。平成27年度は平成28年度から中学校で使用する教科用図書採択の年であり、文部科学省の検定に合格した全ての教科書について、綿密なる調査研究を行い、本市の子どもにふさわしい教科書を教育委員会会議で協議・採択する。

具体的には、県教育委員会が教科用図書選定審議会を設置し、全ての教科書について調査・研究を行い、この審議会の調査結果を基に選定資料を作成し、採択権者(市教委)へ送付することにより指導・助言を行う。

次に、市教育委員会は、教科書研究員が本市の採択基準に基づき、全ての教科書について調査・研究を実施する。その後、学識経験者、学校関係者、保護者、教育委員会、地域関係諸団体などからなる教科書選定委員会において、教科書研究員の報告、教科書展示会からの感想・意見等の資料を踏まえて協議し、教育委員会に意見・具申する。

最終的に、教育委員会会議において協議し、本市の子どもにふさわしい教科書を採択し、県教育 委員会へ報告する。

⑧ 学校規模適正化

近年、少子高齢化の進展が続いている現状において、子どもの減少による小中学校の小規模化は、 学校運営や教育効果等に様々な影響を与えることが考えられ、全国的な課題となっている。

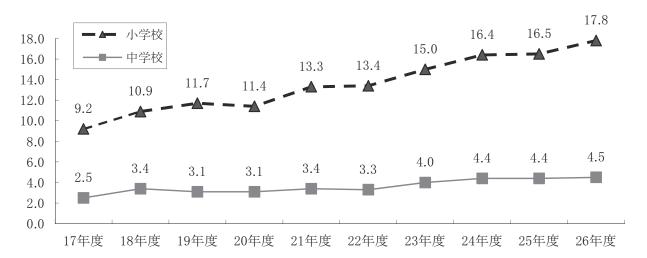
本市においても、小学校の児童数及び中学校の生徒数は減少傾向にあり、農業振興地域や山間部等の地域では、児童・生徒数の減少傾向が著しく、複式学級がある学校もある。また、一部の地域では住宅開発による人口の流入により、大規模化する学校もあり、教室不足等により学校運営に支障をきたしている状況もみられる。

このような状況から、教育委員会では、本市における小中学校の規模及び配置のあり方について 基本的な考え方を整理し、今後の適正化に向けた具体的な方策等を示した「熊本市学校規模適正化 基本方針」を平成26年6月に策定し、子どもたちにとって良好な教育環境の整備の充実に取り組 んでいる。

(2) 学校図書館の充実

- ① 学校図書館の効果的な活用
- 学校図書館司書業務補助員配置

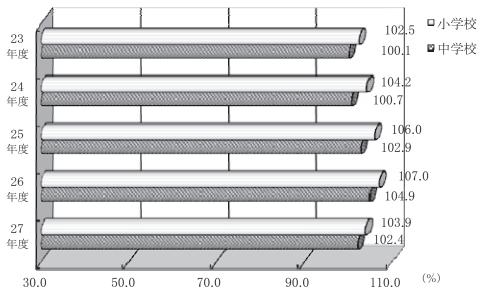
学校図書館の機能の充実と円滑な運営を期するため、図書館主任や司書教諭の補助として、図書 館業務にあたる司書業務補助員を、平成12年度から市立全小・中学校に配置している。 <4月~6月における1人あたりの館外貸出冊数(単位:冊)>



■ 蔵書購入

文部科学省が定める「学校図書館図書標準」に基づき、全校が100%を達成するよう蔵書の充実を図っている。(図書購入費:小学校1校あたり平均32万円、中学校1校あたり平均50万円)





② 学校図書館支援センター推進事業

庁内関係部署との連携のもと、学校図書館支援センターを中核にして、蔵書データベースと情報ネットワークの管理、図書物流システムの運営など、学校図書館や市立図書館・公民館等図書室の図書を活用した授業支援や読書活動を推進している。

このことにより、学校や家庭における子どもの読書活動を支援し、子ども達が本に触れ、本に親しむ機会を創出している。

○ これまでの主な実績

・平成13年度 学校図書館蔵書のデータベース化、図書の検索・貸出の電算化

・平成14年度 学校図書館及び市立図書館・公民館図書室の共通利用カードの発行

・平成14・15年度 研究実践協力校43校による図書資料の流通試行

・平成14~16年度 「物語定期便」用図書の購入

・平成16年度 市内全小中学校117校における図書資料の流通開始

学校図書館支援センターの開設

・平成16年度~ 調べ学習フェスタ(平成21年度より調べ学習コンクール)の実施

・平成17年度 読書活動ホームページの開設

・平成20年度 学校図書館支援センター事務局を市立図書館に移行

・平成21年度~ 小学校低学年向けの良書を紹介した冊子「としょかんへおいでよ」の作成

と配布

・平成23年度~ 新しくなった「物語定期便」の学校間巡回開始

・平成27年度~ 小学校中学年・高学年と中学生向けの良書を紹介したリーフレットの作成

と配布

○ 主な事業

• 物語定期便

平成18年度

市立図書館が管理する、1セット120冊の物語図書等を「物語定期便」として各学期内に4週間に1回の周期で各学校に貸し出している。

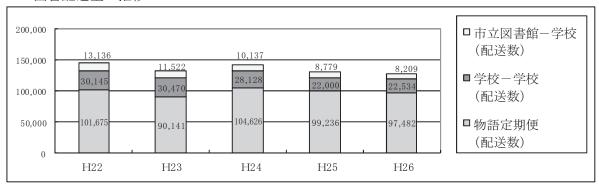
なお、長年の使用に伴い、平成22年度に各学校の学校図書館司書業務補助員等が選書を行い、 物語定期便用図書の買い替えを行った。

・リクエスト便

調べ学習用の図書や物語図書等を児童生徒、教職員のリクエストに応じて、他校や市立図書館・ 公民館図書室等から貸借するしくみのことで、書名を決めて依頼する「書名リクエスト」と、単元 やテーマ等により依頼する「テーマリクエスト」の2種類の依頼方法を実施している。

このほか、「特別支援学級図書セット」、「郷土資料セット」といったパッケージ化した図書資料のセットのリクエストも受け付けている。

<図書配送量の推移>



(3) 国際教育の推進

国際社会に生きる日本人を育成するために、外国語活動の充実を図りながら、自国の伝統や文化を学ぶとともに、英語等の外国語の基礎やコミュニケーション能力を身に付け、異文化交流体験等を通じて相互の社会や文化・歴史等に対する理解を深める。

■ 英語指導者招致事業

総務省、外務省、文部科学省及び(財)自治体国際化協会の協力の下、「語学指導等を行う外国 青年招致事業(JETプログラム)」により、昭和63年度から外国語指導助手(ALT)を招致 しており、中学校・高校において日本人英語教員とのティームティーチングによる英語指導に当 たっている。

小学校においても、外国語活動や総合的な学習の時間における国際理解教育の一環として、積極的に英語とかかわる活動を取り入れ、平成19年度からは全小学校にALTを派遣している。また、平成27年度は、小学校において地域人材活用による外国語指導助手も6名配置している。

<ALTの配置状況>

年 度	小学校・中学校	高 校	地域人材	合 計
平成23年度	28人	1人	2人	31人
平成24年度	28人	1人	2人	31人
平成25年度	28人	1人	2人	31人
平成26年度	27人	1人	5人	33人
平成27年度	26人	1人	6人	33人

■ 日本語指導

帰国・外国人児童生徒等にセンター校(黒髪小学校、桜山中学校)での指導を中心とした日本語の指導、学習指導及び生活適応指導等を行い、学校の教育活動に対する支援を行うなど、小学校・中学校における帰国・外国人児童生徒等の教育の充実に努めている。

<日本語指導を受けた児童生徒数>

年 度	小学校	中学校	合 計
平成23年度	27人	19人	46人
平成24年度	33人	13人	46人
平成25年度	45人	16人	61人
平成26年度	39人	22人	61人
平成27年度(5月)	27人	17人	44人

■ 外国語教育の充実

国は、平成25年12月に「グローバル化に対応した 英語教育改革実施計画」を公表し、小学校における英語 教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度 化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本 的改革を推進している。

本市においても、このような国の動向を踏まえ、平成26年度から文部科学省の英語教育強化地域拠点事業の採択を受け、新たな英語教育への準備を進めるとともに、英語によるコミュニケーション能力を養うためにイングリッシュキャンプを実施(平成26年8月、金峰山少年自然の家において、2泊3日のキャンプを開催。中



イングリッシュキャンプの参加者とALT

学生71人、ALTと英語教員が参加)するなど、グローバル人材の育成に向けて、本市の児童生徒の英語力向上に取り組んでいる。(平成27年度は、2回実施し、142人の生徒が参加予定)

- ○小学校段階における外国語活動の推進
- ○円滑な小・中・高等学校の接続を目指す英語教育の推進(英語教育強化地域拠点事業)
- ○教育課程特例校での小・中連携による英語教育の推進(植木地区、富合地区)
- ○全5・6年担任へALTによるニュースレターの配布

- ○全中学校へのデジタル教科書の導入と活用 ○ブラッシュアップイングリッシュセミナーの実施
- ○ALTの効果的活用(イングリッシュキャンプ、ALT複数派遣による中学校スピーキングテストの実施、ALTプロジェクトマネージャーの設置)
- ○英語教育推進委員会の開催 ○英語教育推進リーダーによる英語教育推進研修会の開催
- ○国際交流員、地域人材の活用、国際交流関係諸団体との連携
- ○異文化交流体験の推進 ○英語等の外国語の基礎や実践的コミュニケーション能力の育成

(4) 教育の情報化の推進

学校にコンピュータやインターネット等が使えるICT (情報通信技術) 環境を整備するとともに、熊本市地域教育情報ネットワークシステム (通称: e-n e t) を活用して、教育の情報化を進めている。

また特に、ICT活用による「わかる授業」を目指し、「かわる」をキーワードにして、「授業がかわる」「子どもがかわる」「学校がかわる」の3つの側面から教育の情報化に取り組んでいる。

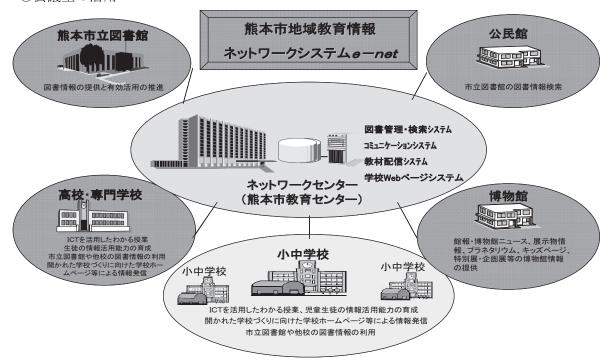
- ・授業がかわる(ICTを活用した「わかる授業」の実現、ICTで築く確かな学力) 教員の指導力の向上を図り、創意工夫した質の高い授業を実現する。
- ・子どもがかわる(情報活用能力・情報モラルの育成) 信頼性のある情報、必要な情報を収集し、判断して活用できる能力を育てる。 学校と家庭が連携・協力して、情報モラル教育を推進する。
- ・学校がかわる(校務の情報化、学校と家庭・地域との連携等) 各学校ホームページを活用し、学校の情報を家庭や地域等に発信する。 個人情報保護のためのセキュリティ対策を行い、校務の効率化のために情報化を推進する。

① 整備方針

平成10年度から平成14年度の5年間で、国庫補助制度等を活用し、小中学校のコンピュータ室及び機器の整備を行い、平成14年度から授業におけるコンピュータ機器の活用を本格化している。これに併せて、平成14年度から平成16年度までの3ヵ年で全小中学校に校内LANの整備を進め、電源の確保に伴う改修工事等を行うとともに、教材提示用のコンピュータ及びプロジェクタを配備した。なお、コンピュータ機器については、整備計画に基づき更新を行っている。

- 教育センター 熊本市地域教育情報ネットワークの中心施設として整備(各種サーバ設置、I C T研修室整備、I C T 支援室の設置等)
- 〇 学校
 - ・小学校 コンピュータ室20台、図書室2台、職員室1台、校内LAN構築(電子黒板を1台、 デジタルテレビを3学級に1台配置、プロジェクタを3学級に1台配置。職員室LA N構築。特別支援学級を設置する学校に1台パソコン配置。教員用パソコン一人1台 の配備)
 - ・中学校 コンピュータ室40台、図書室2台、職員室1台、校内LAN構築(パソコンを通常 学級に各1台、電子黒板を1台、デジタルテレビを3学級に1台配置、プロジェクタ を3学級に1台配置。職員室LAN構築。特別支援学級を設置する学校に1台パソコ ン配置。教員用パソコン一人1台の配備)
- ② 熊本市地域教育情報ネットワークシステムにおける主な提供システム
- 教材及び教育情報等の配信システム
 - ○教育センターホームページのリニューアルによる教育情報提供システムの改善

- ○「わかる授業」のためのデジタル教材開発及び提供
- ○「情報モラルの授業」「わたしたちの熊本」をはじめ、役に立つ教育情報の提供
- ○「先生ちゃんねる」などの動画による、○JTに役立つ資料の提供
- 図書管理・検索システム
 - ○学校図書館の蔵書情報の一元管理及び学校間における図書の有効活用の推進
 - ○各学校図書のバーコードによる貸出、返却システム導入による省力化の推進
- 学校Webページシステム
 - ○開かれた学校づくりとしてのさまざまな学校情報の提供
 - ○校長の決裁による即時更新システム
- ゆうnetシステム、e-netメール
 - ○グループウェアによる学校内外との情報の共有化の推進
 - ○電子メールによる校務の効率化の推進
 - ○会議室の活用



- ③ 教員のスキルアップ、サポートの充実
- 研修の充実(ICTを活用した「わかる授業」の実現)
 - 〇 研修概要
 - ・新転採管理職への情報化研修(新・転採校長、教頭)
 - ·情報教育担当者研修(各校1人)
 - ・ ICTを活用した授業づくり研修(各校1人半日講座)
 - ・情報モラル教育推進リーダー研修会(各校1人半日2回)
 - ・熊本市情報モラル教育セミナー(各校2人半日講座)
 - ・ I C T 活用研修(希望者) 4 講座
 - ・トワイライト研修(教科指導におけるICT活用、児童生徒の情報活用能力の育成)12講座 13日
 - ・小・中・高等学校の保護者対象へのネットトラブルの現状と対策研修(1講座)
 - ・パッケージ研修によるICT活用の校内研修支援

- 研究・開発の充実(ICTを活用した授業づくり、児童生徒の情報活用能力の育成)
 - 研究概要
 - ・地域教育情報ネットワークシステムの冗長化
 - ・「わかる授業」のためのデジタル教材開発
 - ・教育情報提供システムの開発(動画番組「先生ちゃんねる」「情報モラルの授業」等)
 - ・情報モラル教育カリキュラム開発と推進
 - ・研究指定校(ICT活用)による研究
 - ・研修プログラムの研究開発

「ICTを活用した授業づくり研修開発」

「児童生徒の情報活用能力育成のための研修開発」

- サポート体制の充実(「わかる授業」の実現のためのICT支援員による支援の充実)
 - 支援概要(ICT支援員(10人)学校担当及び教材作成担当制)
 - •授業支援
 - 校内研修支援
 - · 校内 L A N活用支援
 - ネットワーク管理
 - ・電話等問い合わせ支援、障害・トラブルへの出前対応
 - ・授業用デジタル教材作成
 - ・指導案のデータベース化等校務のICT化支援
 - 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(平成26年3月現在) <コンピュータ整備の実態等>

	教育用コン	化° 1-91台	治たり児	童生徒数	普通教室の LAN 整備率			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	6.5	7.3	6.5	5.0	85.6	83.9	82.9	94.1
熊本県	5.5	7.2	5.4	3.6	91.2	91.4	88.5	94.5
熊本市	12.7	16.5	9.9	4.0	98.7	100.0	100.0	35.7

<教員のICT活用指導力の状況>

	A 教材研究·指導の準備·評価など にICTを活用する能力			B 授業中にICTを活用して指導 する能力			C 児童・生徒の ICT 活用を指導 する能力					
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	80.9	81.9	78.6	81.9	69.4	72.3	65.2	68.6	64.5	68.0	58.9	65.9
熊本県	85.5	87.0	84.1	84.0	75.7	79.0	71.8	72.5	67.2	70.5	60.6	68.4
熊本市	83.4	85.2	81.1	76.3	72.6	76.7	66.6	61.5	62.0	67.2	53.7	56.4

	D 情報	モラルな。	どを指導す	る能力	E 校務にICTを活用する能力			
	合計	小学校	中学校	高等学校	合計	小学校	中学校	高等学校
全国平均	76.1	79.6	72.8	76.5	77.0	77.3	75.0	80.3
熊本県	80.1	83.3	78.2	77.5	79.3	80.0	76.8	81.5
熊本市	78.7	81.2	74.6	76.8	76.0	78.0	73.1	72.6

④ ICT環境充実事業

ICTを活用した授業推進モデル校(小学校1校、中学校1校)の特別支援学級においてタブレット端末を活用し、児童生徒の視覚情報に訴えるなど、個々の障がいや特性に応じたより効果的な学習モデルの研究検証を行う。

(5) 教職員研修の充実

広い視野と使命感、専門的知識や能力をもった教職員を育成し、教職員力(マネジメント力・ 実践的指導力・教師としての基盤)の向上を図るために、教職員の研修の場と機会を確保すると ともに研修内容の充実を図る。

キャリアステージと

基礎期(1~3年) 基礎基本の力を身につける

向上期(4~ 協働して自らの

數 職 員 勿

琊

修

0

マネジ メント力

先輩の指導を受けながら、組織の一 員として誠実に職務を遂行する力を身 につける。

組織に貢献しようとす の向上に努め、同僚と 実に業務を遂行する力

実践的 指導力

学習指導・生徒指導に関する職務の基 礎的な理解及び基礎的な指導技術や技 能を習得する。

自らの実践を省察す 践的・専門的な知識や び続ける力を伸ばす。

教師とし ての基盤

先輩の指導を謙虚に受けながら、職務 を遂行するための基本的な知識や感覚 を身につける。

先輩の指導を生かし、 言ができる。また、専門 向上に努める。

教育公務員としての自覚・規 人権に関する確かな理解と 日々、「教育都市くまもとの

教育情報の配信

OJT

校内研修支援(パッケージ研修,指導主事派遣 研究委嘱•指定校

初任校研修

初任者研修

(校内:120h以上, 校外:19日)

熊本市教職員1年目研修

2年目研修 3年目研修

Off-JT

教育講演会, 主任担当者研修, 教科等研修 センター研修(情報教育担当者研修,幼児教育

SD

教師塾「き

研修施設派遣,先進校派遣,教育情報の配 センター研修(教科等教育,特別支援教育,教

熊本市教育委員会

しての教職員研修体系

10年) カを伸ばす 充実•発展期(11~20年)

自らの専門性を高め リーダーとしての力を伸ばす 発展・円熟期(21年~) 全校的な視野に立って リードする力をつける

る意欲と実践力 連携しながら着 を身につける。 リーダーとして高度な知識・技能の習得を自覚し、後輩の育成に努めるとともに、組織全体について課題を精査し、工夫改善の意欲をもって、チームで業務を遂行する力を身につける。

指導者・管理職として、全校的視野に立った企画力・経営力、学校内外の能力や資源を開発・活用する力を身につける。

ることによって、実 技能を習得し、学 自らの実践を省察することによって、高度な知識や技能の習得を自覚し、リーダーとして効果的に実践できる。

全校的な視野・人材育成の視点に立って省察し、高度な知識や熟練した技能を活かして、教職員の力量形成を支援・指導する。

後輩へ適切な助 職としての資質 後輩の手本となるとともに、後輩の発言や行動について適切に助言を行う。また、専門職としての自覚を高める。

後輩の手本となるとともに、後輩の発言や行動について適切に助言・指導を行う。また、学校全体の風土の醸成に尽力する。

範意識を持ち、法令等を遵守し、誠実かつ公正に職務を遂行する。 豊かな人権感覚を身につけ、状況に応じて的確な行動・発言を行う。 教職員像」を意識し、その具現化に努める。

), ステップアップサポーター・学力向上支援員派遣,

研究モデル校

10年経験者

75 研修 番

20 研修 番

など課題別研修, 指導改善研修,

研修)

新任管理職研修

らり」 先輩塾生講座 (塾生の養成・師範の養成)

信,

育の情報化、カウンセリング、授業づくり、心のリラックス)

■ 授業力向上支援員 (ステップアップサポーター) 派遣事業

授業力の優れた退職教員(ステップアップサポーター)を、小・中学校に派遣し、授業に即して 支援し、また、学校全体を支援し、校内研修の活性化、学校訪問の充実など、教職員の授業力向上 を図っている。

年度	小学校		中等	学校	合 計		
	派遣学校数	研修者実数	派遣学校数	研修者実数	派遣学校数	研修者実数	
22年度	76校	211人	32校	148人	108校	359人	
23年度	68校	194人	28校	98人	96校	292人	
24年度	63校	149人	35校	105人	98校	254人	
25年度	89校	378人	41校	185人	130校	563人	
26年度	71校	365人	33校	155人	104校	520人	

■ 校(園)内研修

各学校や園においては、学校教育目標の達成のために、実態に応じて研究主題を設定し、組織的・計画的に研修を行い、各教科等の授業における「指導力の向上」及び子どもの理解や学級経営等につながる「教師としての資質や能力の向上」を図っている。

- 平成26年度 1校(園)あたりの平均実施状況
 - ・幼稚園 35.3回 ・小学校 28.1回 ・中学校 23.1回

■ 校外研修(Off-JT)における経年者研修

講座名	研修の目的						
	・「教育都市くまもとの教職員像」	初任者研修	教職員としての基礎基本				
初任校研修	を意識し、その具現化に努める。 ・基礎的、基本的指導力を習得し	熊本市教職員1年目研修 (初任者研修修了者)	教職員としての資質や能力と幅広い知見				
	先輩の指導を受けながら、組織 の一員として誠実に職務を遂行	初任校(2年目研修)	主に生徒指導に関する指導技術の向上				
	する力を身につける。	初任校(3年目研修)	主に学習指導に関する指導技術の向上				
10年経験者研修	・向上期における自ら身についた力を振り返るとともに、充実・発展期における「マネジメント力」「実 践的指導力」「教師としての基盤」を具体化に意識する。						
15年経験者研修	・充実・発展期における「マネジメる。	ント力」「実践的指導力」	「教師としての基盤」を確実に身につけ				
20年経験者研修	・充実・発展期における自ら身につ トカ」「実践的指導力」「教師とし	_	に、発展・円熟期における「マネジメン 。				
新規臨採研修							
2年目臨採研修	・熊本市教育公務員としての自覚						
3年目臨採研修	・学校経営重点計画を活かした課題解決						
臨採研修	・キャリアステージの意識化と自己課題の解決						
(4年以上)							

社会体験研修は、教育現場とは異なる職場で働く人々の勤労意識に学び、社会人としてのあり方を考えることを目的とし、初任者研修で3日間、10年経験者研修で2日間行っている。

■ 新任管理職研修

○ 事業の目的

新任の学校管理職に対して、事例研修や講話・演習等を取り入れた研修を実施し、学校管理職としてのスキルや資質・力量を高めるとともに、実践的かつ総合的な学校経営力の向上を図るために、平成26年度から職能研修として開講された。

平成26年度は、市校長会・教頭会の支援のもと、学校問題事例研究発表会を開催するとともに研究発表会の成果等をまとめた新任管理職研修テキスト(学校問題事例集)を作成し、全管理職に配布した。



管理職研修の様子

- 平成26年度の実績(研修生:新任校長28人、新任教頭34人) 年間7回の研修(悉皆研修3回、トワイライト研修3回、学校問題事例研究発表会1回)を実施した。
- 平成27年度の事業(研修生:新任校長39人、新任教頭50人、新任園長3人)
 - 研修講座7回

講話・演習	5回
(心構え、学校経営重点計画の活用、	(新任校長園長・新任教頭別研修2回含む)
危機管理体制、人事評価等)	(悉皆研修3回、トワイライト研修2回)
講演会・学校問題事例研究発表会	1回 (新任校長園長・新任教頭別)
午前:講演会	新任校長園長対象1回 (全小・中・高等・
「リーダーシップとマネジメント」	専門学校校長園長参加)
「教育都市くまもとの教職員像と	新任教頭対象1回 (全小・中・高等・専門
リーダーシップ」 午前:学校問題事例研究発表会 学校問題事例研究発表会に向けて	学校教頭参加) 1回(トワイライト研修)

・新任管理職研修テキスト(学校問題事例集)の作成

■ 教師塾「きらり」

○ 事業の目的

教師の授業力向上と「学び続ける教員」としての資質を育成することを目的にして、平成24年度から開講された。採用4年目から10年目までの幼稚園及び小中高等学校教諭を対象とした希望研修であり、塾生は1年間の研修を受ける。塾生は、経験豊かで優れた授業力をもつ師範による「指導授業」や全国的に著名な実践家による「講師招聘授業」を参観する。また、研究授業

を公開したり、実技講座を受講したりする。それらの活動をとおして授業の実践的指導力やそれを支える理論を学ぶ。

平成25年度は、先輩塾生による講座と研究 発表会を開催し、教師塾修了生が自主的に学び 合い、自らの実践を報告する場を設けた。さら に、市外の先進校・研究実践校に学ぶための師 範1人と塾生3人の派遣研修を実施した。

平成26年度は、先輩塾生8人の派遣研修を 実施した。



教師塾「きらり」

<平成26年度の実績(塾生30人)>

~十八〇〇十尺の天順(至二〇〇八)/	
特別講師招聘授業	2回
外部講師による講話・模擬授業	6回
師範の指導授業	30回
塾生の研究授業	90回
実技講座	10回
一・二期生による実践・研究発表会	1回
OBOG講座	7回
派遣研修 (OBOG8人、師範9人)	17人

<平成27年度の事業(塾生30人予定)>

特別講師招聘授業	2回
外部講師による講話・模擬授業	6回
師範の指導授業	30回
塾生の研究授業	90回
実技講座	10回
二・三期生による実践・研究発表会	1回
先輩塾生向け特別講座	1回
派遣研修 16.	人程度

■ 授業研究の充実(学びわくわく小中学校授業研究会)

各教科等及び特別支援教育の専門的知識を深めるとともに、教育課程及び学習指導法等について 研究協議を深め、教職員の指導力の向上を図る目的で、授業研究会の充実に努めている。

「授業研究会の日」を、6月・10月・2月に実施し、このうち一斉開催を中学校は10月、小学校は2月に実施する。

		授業研究会実施回数						
	如 九 云 石		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	
	熊本市小学校国語教育研究会		9	7	9	11	11	
	熊本市小学校書写教育研究会	1	1	1	1	1		
	熊本市小学校社会科教育研究会		5	5	6	6	5	
	熊本市小学校算数教育研究会		5	5	5	5	6	
J.	熊本市小学校理科教育研究会		4	3	4	4	4	
小	熊本市小学校生活科・総合的な学習研	究会	6	7	3	3	8	
学	熊本市小学校音楽教育研究会		4	4	4	4	3	
校	熊本市小学校家庭科教育研究会		5	5	4	4	6	
	熊本市小学校体育研究会		6	5	7	7	8	
	熊本市小学校道徳教育研究会		3	4	4	4	6	
	熊本市小学校特別活動研究会	4	5	5	5	5		
	熊本市小学校外国語活動研究会	3	4	4	4	4		
	小学校計		55	55	56	58	67	
	熊本市中学校国語教育研究会		4	4	4	4	4	
	熊本市中学校社会科教育研究会		3	3	3	3	3	
	熊本市中学校数学教育研究会		3	5	5	5	5	
中	熊本市中学校理科教育研究会		4	4	5	5	5	
'	熊本市中学校音楽教育研究会		1	1	1	1	2	
学	熊本市中学校体育研究会		5	5	5	5	4	
校	熊本市中学校技術・家庭科教育研究会		2	2	2	2	2	
111	熊本市中学校英語教育研究会		5	5	4	5	5	
	熊本市中学校道徳教育研究会		1	*	1	*	1	
	熊本市中学校特別活動研究会		0	*	0	*	0	
	中学校計		28	29	30	30	31	
	熊本市小中学校図画工作美術教育研究会	小	4	4	4	4	5	
合		中	1	1	1	1	1	
同	熊本市特別支援教育研究会	小	6	5	5	5	6	
		中	1	4	4	4	4	
	総計		95	98	100	102	114	

※ 中学校の「道徳」「特別活動」については、教育委員会主催の授業研究会を実施

■ 学校教育アドバイザー事業

平成15年度から、熊本大学教育学部の協力により、教授、准教授等をアドバイザーとして市立の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園に招聘する。専門分野からの指導助言を得ることにより、校内研修会や教科等教育研究会の充実を図り、教職員の指導力向上に資する。

○ 平成26年度活用実績

	幼稚園	小学校	中学校	研究会 (小)	研究会 (中)	委員会 (センター)	計
校 (園)	2	9	8	_	_	_	19
回数	2	22	12	4	19	10	69

○ 平成26年度講師数 25人(69回)

■ 研究委嘱校(園)、研究指定校・研究モデル校

子どものたちの学力充実を図るとともに、教職員の指導力向上を図るために、課題について研究 を委嘱し、成果を発表する。

○ 平成26・27年度 熊本市教育委員会研究委嘱校 (園)・研究指定校一覧

学校名	研究領域	研究発表日	研 宪 主 題
西里小学校	治 士大学	10月16日	自分の考えを表現する力を高める授業の創造
(指導・指定)	学力充実	(金)	~協同的な学習を通し、確かな学力の定着を目指して~
城山小学校	学力充実	10月23日	しっかり「きいて」考える確かな学力を身につけた児童の育成
(指導・指定)		(金)	
下益城城南中学校	教育課程	10月30日	「わかるってこういうことなんだ!」
(指導・委嘱)	秋月床住	(金)	~「単元の最終課題」を解決する力の育成を通して~
東町小学校	业 去细印	11月6日	特別支援教育の視点を基盤にした学校教育の創造
(総支・委嘱)	教育課程	(金)	~安心できる学級と全員参加の授業をめざして~
吉松小学校	% 1.7.7	11月10日	読みをもとに 主体的に考える子どもの育成
(指導・指定)	学力充実	(火)	~国語科「読みの教材」の指導を通して~
田迎西小学校	学力充実	11月13日	いきいき わくわく 考える子どもの育成
(教セ・指定)	教育の情報化	(金)	~情報に主体的に関わり 学び合う授業の追求~
河内中学校	牌店券去	11月13日	自主的に健康で安全な生活を実践することのできる能力と態度の育成
(健教・指定)	健康教育	(金)	~日常生活における適切な体育・健康に関する活動の実践を通して~

○ 平成27・28年度 熊本市教育委員会研究委嘱校(園)·研究指定校一覧

学校名	研究領域	研 宪 主 題・研 宪 内 容					
慶徳小学校	特別支援教育	特別支援教育の視点を生かした、思考力・表現力の育成					
(総支・委嘱)	特別又饭教育	~算数科・生活単元学習・自立活動の指導を中心に~					
湖東中学校	教育課程	生徒一人ひとりが「わかる・できる」を実感し、確かな学力を身に付ける授業の創造					
(指導・委嘱)	教育硃怯	~「授業のUD化」に基づいた環境整備・授業改善を通して~					
带山西小学校	学力充実	「問い」に気付き、自ら考え、実行する子どもを目指して					
(指導・指定)	子刀兀夫	~"たい"が泳ぐ授業づくりを中心に~					
菱形小学校	兴力大学	思考力を高める指導法の工夫					
(指導・指定)	学力充実	~UDの視点を取り入れた授業の構造化を通して~					
天明中学校	学五大学	以下至464. 民户 公园与在郊村区市区和4. 比什么本中					
(指導・指定)	学力充実	学ぶ喜びを感じ、学習に意欲的に取り組む生徒の育成					
力合中学校	4. 公 45.) 英	d della dell					
(総支・指定)	生徒指導	生徒指導の三機能を生かし、主体的に課題を解決できる生徒の育成					
花陵中学校	教育の情報化	気づき・考え・実行できる生徒の育成					
(教セ・指定)	ICT活用	~よりよい生活の創造と確かな学力の充実~					

○ 平成27年度 研究モデル校

研究領域	主管課	モ デ ル 校 名
少人数指導 (算数・数学)	教育政策課 教育センター 指導課	泉ヶ丘小学校・長嶺小学校・日吉東小学校 城南中学校・三和中学校
道徳教育	指導課	一新小学校・西山中学校・大江小学校
ICT活用	指導課 教育センター	江南中学校
ICT活用 (平成27・28 年度)	教育政策課 教育センター 総合支援課	託麻北小学校・藤園中学校
課題解決に向 けた主体的・ 協働的な学び	指導課	壺川小学校・富合中学校
英語教育 (平成26~29 年度)	指導課	尾ノ上小学校・月出小学校・山ノ内小学校 錦ヶ丘中学校・必由館高校

(6) 小中一貫教育

富合小学校と富合中学校は、平成16年度から、小中一貫教育の特区認定を受け、小中学校間のスムーズな移行を図るとともに、子どもたちの発達段階や個性に応じた特色ある教育活動を推進している。

平成20年度からの構造改革特別区域研究開発学校設置事業の全国展開に伴い、文部科学省へ 教育課程特例指定変更申請を行い、教育課程特例校としての承認を受けた。

その取組を積極的に公開するとともに、小中一貫教育検証検討委員会の議論も踏まえ、平成25年度まで小中一貫教育の成果の検証と改善を積み重ねてきたが、平成26年度から5年間の教育課程特例校の継続について承認を受けた。また、平成26年度から、熊本市小中一貫教育検討委員会を発足させ、本市におけるこれらの小中一貫教育のあり方について検討を開始した。

(7) 高等学校及び専門学校の活性化の推進

本市は、普通科と普通科3コースを有する熊本市立必由館高等学校(全日制高等学校)、普通科2コースと情報科2コースを有する熊本市立千原台高等学校(全日制高等学校)、そして熊本市立総合ビジネス専門学校(商業系専門学校)を設置している。

社会の進展に対応し、生徒のニーズに応じた多様な教育及び特色ある学校づくりを推進するために、魅力あるカリキュラムの編成と教育内容の充実に努めるとともに、教職員研修の充実を図る。

■ 熊本市立必由館高等学校



○ 生徒数(平成27年5月1日現在)

					1年	2年	3年	計
普		j	Ĺ	科	240	239	235	714
普	通	科	国際ニ	ロース	40	39	39	118
普	通	科	芸術ニ	ロース	40	40	37	117
普遍	通科 月	日飾う	デザイン	/コース	40	39	40	119
		言	+		360	357	351	1,068

〇 沿革

明治44年 4月 熊本市立実科高等女学校として開校 修業年限2ヵ年

大正11年 4月 熊本市立高等女学校と校名変更 修業年限4ヵ年とする

昭和 6年 2月 現在地に校舎新築移転

昭和23年 4月 熊本市立女子高等学校と校名変更 普通科、被服科併設の総合高校となる

昭和24年 4月 熊本市立高等学校と校名変更、男女共学となる

昭和32年 4月 商業科設置

昭和34年 4月 商業科が熊本市立商業高等学校として独立

昭和42年11月 創立55周年並びに校舎落成記念式典を挙行

昭和48年 4月 男子生徒106名が15年ぶりに入学する

平成13年 4月 熊本市立必由館高等学校へ校名変更

被服科廃止、校名披露・創立90周年記念式典を挙行

平成19年10月 新校舎落成記念式典を挙行

平成23年11月 創立100周年記念式典を挙行

○ 教育目標

校訓「至誠・進取・和敬」のもと、気品と節度ある態度を養い、正しい判断力と実践力を身に付けた、社会に貢献できる心豊かな生徒の育成を目指している。

平成13年度から普通科国際コース、芸術コース、服飾デザインコースを設置して、生徒の適性や能力を生かした教育を実践し、一人一人の生徒の進路目標の達成を目指して、学力充実に努めている。

○ 各コースの主な活動・実績(平成26年度)

<国際コース>

- ・6月 平成25年度サンアントニオ市派遣留学生、3名帰国
- ・7月 平成26年度熊本市・サンアントニオ市交換留学生事業合同説明会
- ・7月 サンアントニオ市交換留学生2名受け入れ
- · 7月 1年生国内英語研修:福岡県宗像市(2泊3日)
- · 8月 中国·桂林市友好訪問団 2 6 名来校
- ・8月 平成26年度サンアントニオ市派遣留学生2名出発(平成27年5月末まで)
- ・2月~3月 平成27年度サンアントニオ市派遣留学生選考

※ 英語検定準備・実施 6月、10月、1月 英検準1級2名合格

<芸術コース (音楽系)>※一部抜粋

- ・6月 公開テスト (成果発表会)
- ・7月 第39回熊本県高等学校器楽コンクール 弦楽器部門(金賞1名)
- ・8月 中学生の体験入学(63名参加)
- ・8月 第29回八代青少年音楽コンクール ピアノ部門(金賞1名、銀賞1名)

声楽部門(銀賞2名、銅賞1名)

- ・8月 第31回熊本県高等学校ピアノコンクール(銀賞1名、銅賞3名)
- ・8月 第40回熊本県高等学校独唱コンクール(金賞2名、銀賞2名、銅賞1名)
- ・8月 第27回熊本県高等学校管・打楽器独奏コンクール

木管部門(銀賞1名)、金管部門(金賞3名)

- ・9月 第38回全九州高等学校音楽コンクール熊本県代表選考会 金管部門(優秀賞3名)
- ・9月 第20回フッペル鳥栖ピアノコンクール ジュニア部門 高校生の部1位
- ・10月 第68回全日本学生音楽コンクール北九州地区本選 声楽部門 入賞1名
- ・11月 公開テスト (成果発表会)
- ・11月 第38回全九州高等学校音楽コンクール 金管楽器部門(銅賞1名)

弦楽器部門(銅賞1名)

・12月 第47回熊日学生音楽コンクール

ピアノ部門(優秀賞1名) 独唱部門(優秀賞1名)

- ・1月 第10回JBAソロコンテスト 金管部門(銀賞1名)
- ・2月 公開テスト (成果発表会)

<芸術コース (美術系)>※一部抜粋

- ・7月 全国総合文化祭、県下高校生写生大会への参加
- ・8月 基礎力向上のための実技講習会(3日間)
- 1 1 月 2 年生京都写生旅行
- 1月 卒業制作展(県立美術館分館)
- ・2月 市役所1階ロビーでの作品展示(美術・書道)
- ・第77回銀光展 3点鍾賞1名、ホルベイン賞1名、他入賞入選多数
- 第18回熊本県高等学校写生大会 特選8名 準特選7名、入選6名
- ·第69回熊本県美術協会展 日本画部門入選1名、洋画部門入選6名
- 第50回記念熊本県水彩画会展 県水彩画会賞(大賞)1名、県美術家連盟賞1名、熊日賞1名
- ・第58回西日本読書感想画コンクール 県審査特選6名、準特選5名
- ・第39回熊本県高等学校美術展 最優秀賞1名、優秀賞・県代表2名、優秀賞4名
- ・第21回日本高校生デザイングランプリ 審査員特別賞1名、アート賞2名、熊日新聞社賞1名 入選6名、優秀学校賞
- ·第38回九州青年美術公募展 奨励賞1名、入選6名

<芸術コース(書道系)>※一部抜粋

- ・熊本県高等学校揮毫大会において、団体の部11年連続団体優勝
- ・文部科学省後援書写検定全員合格、毛筆・硬筆準1級6名合格、2級全員合格
- 1月 卒業制作展(熊本県立美術館分館)
- ・第33回熊日新鋭書道展 グランプリ1名
- ·第20回九州高文連揮毫大会 第三席1名
- ・第63回七夕展 日本の七夕展賞 1名
- ・第41回学生学童書道展(条幅の部)(半紙の部) 各放送局賞多数
- ·第55回熊日書道展 県知事賞1名、秀作4名、入選16名
- ·第21回熊本県高等学校紙上展 会長賞1名、大賞1名、準大賞3名
- ・第36回読売学生書展(条幅の部)熊本県教育委員会賞、長崎県知事賞、熊本県賞 長崎県教育委員会賞1名
- ·第5回熊本県新春学生書道展 書道連盟賞1名、大賞2名

<服飾デザインコース>※一部抜粋

- ・5月~7月 マナー検定に向けての特別講義
- ・7月 第68回県美展(工芸)出展 染額 入選5名
- ・7月 編み物特別講座 講師:紫垣郁子先生
- ・7月25日 中学生体験入学(中学生220名参加)
- ・8月19日 社会見学研修 久留米絣会館、縫製工場「ラ・モード」、博多織工芸館など
- · 8月 高校生対象職業理解推進講座(文化服装学院) 1名参加
- ・9月 文化祭展示・ファッションショー発表
- ・10月 第36回熊本県・市中学校技術・家庭科展出品展示 約70点を展示
- ・11月~12月 染色特別講義 講師:高津明美先生
- ・1月25日 コース発表会(鶴屋ホール)

生徒実行委員を中心に1年間の学習の成果をファッションショー及び展示により発表した。これまでの歴史と伝統を継承しつつ、高齢者の交通安全推進に向けた衣装デザインなど、新たな挑戦にも取り組んだ。服飾デザインコースの生徒としての自覚とともに3学年の連携

と団結を密にするよい機会となった。

- ・3月 作品集「輝いて私たち」及びDVD発行
- 進路状況 (現役のみ実数)

進品	 各先		_		卒業	年度	22年	23年	24年	25年	26年
国	公	<u>1</u> .	大	Ċ	学	等	35	35	55	30	23
私	7	Ī.	大	Ē	学	等	134	153	154	182	190
短		期		大		学	29	29	24	21	24
高	等	看	護	t E	学	校	11	8	19	11	16
専	修	各	種	学	校	等	84	79	72	83	75
進			学			計	293	304	324	327	328
就						職	14	20	8	8	10
そ	の	他	•		未	定	24	21	10	16	14
		合		計			331	345	342	351	352

○ 部活動

- ・文化部 美術、演劇、書道、音楽、写真、JRC、放送、文芸、新聞、吹奏楽、筝曲、化学、茶道、 煎茶道、和太鼓、和装文化、服飾デザイン、華道同好会
- ・体育部 陸上、剣道、弓道、水泳、新体操、女子バレーボール、男女バスケットボール、卓球、 男女ハンドボール、ソフトボール、テニス、ソフトテニス、バドミントン、サッカー、 野球
- 部活動の主な実績(平成26年度)
 - ※音楽部、美術部、書道部、服飾デザイン部はコースの実績を参照
 - < IRC部>
 - ・熊本ナマステの会「ネパールに学校を贈ろう運動」
 - ・ブロック海外派遣事業(ベトナム) 1名参加
 - ・第17回ボランティア・スピリット(アワード) コミュニティ賞
 - ・国際ソロプチミストアメリカ「ヴァイオレット・リチャードソン賞日本南リジョン賞」

<写真部>

- ・第1回ふるさと古民家甲子園熊本大会 優秀賞 (Aチーム)
- ・平成26年度熊本県高等学校文化連盟写真部前期・後期コンテスト 入選各1名

<放送部>

- ・NHK杯全国放送コンテスト出場
- ・九州高校放送コンテスト アナウンス部門、朗読部門出場

<吹奏楽部>

- ・九州吹奏楽コンクール熊本県予選 銀賞
- ・高文連新人コンクール 銀賞、小編成の部(3位)

<和太鼓部>

- ·第38回全国高等学校総合文化祭 郷土芸能部門出場
- ・日本太鼓ジュニア県予選 8年連続優勝
- ・ユニセフ「アフリカの子どもの日」レセプション、熊本市成人式オープニング等で数多く演奏 <和装文化部>
- ・きもの装いコンテスト世界大会 学校対抗の部 優勝

<陸上競技部>

· 平成 2 6 年度熊本県高等学校総合体育大会

女子100m 6位 女子200m 8位 女子走幅跳 優勝

· 平成 2 6 年度全国高等学校陸上競技対校選手権大会南九州地区予選大会 女子 1 0 0 m 6 位 女子走幅跳 3 位

<剣道部>

- ・平成26年度熊本県高等学校総合体育大会男子団体 4位 男子個人の部 ベスト8 女子団体 3位
- ·平成26年度県下高等学校新人剣道大会 女子個人 3位

<弓道部>

- ·第21回熊本市弓道大会 男子団体2位、女子団体優勝
- ・第13回熊本市民スポーツフェスタ 男子団体準優勝
- <女子バレーボール部>
- ・第46回全国高等学校バレーボール選抜優勝大会県予選 第3位
- · 平成 2 6 年度熊本県高等学校総合体育大会 第 3 位
- ・天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会熊本ラウンド 第3位
- <女子バスケットボール部>
- 1年生大会 準優勝

<野球部>

・春季九州地区高校野球熊本大会 ベスト8

○ 教職員研修(平成26年度実績)

- ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校3校合同人権教育研修会
- ・進路指導、生徒指導、教務主任、教育課程研究協議会、初任者研修、10年経験者研修等については熊本県教育委員会に依頼して実施。

■ 熊本市立千原台高等学校



■ ○ 生徒数(平成27年5月1日現在)

	1年	2年	3年	計
普通科 国際経済コース	41	38	41	120
普通科健康スポーツコース	40	40	39	119
情報科 OA会計コース	82	81	82	245
情報科 経営情報コース	41	40	39	120
計	204	199	201	604

○ 沿革

昭和32年 4月 熊本市立高等学校に商業科設置

昭和34年 4月 熊本市立高等学校から商業科が分離独立 熊本市立商業高等学校となる 通学区は熊本市内

昭和39年 4月 現在地に校舎新築移転

昭和43年11月 創立10周年及び校舎・体育館落成記念式典を挙行

昭和46年 4月 通学区が県下全域となる

昭和49年 4月 男女共学実施 女子50名が入学

昭和63年 4月 情報処理科新設

平成12年 4月 熊本市立千原台高等学校に校名変更

普通科国際経済コース及び健康スポーツコース新設、商業科等を情報科へ改編

平成14年 5月 体育館落成

平成19年11月 創立50周年記念式典を挙行

平成24年 8月 第1期校舎建替工事着工

平成26年 1月 校舎新築のための第1期工事竣工

○ 教育目標

- ・心豊かな人間性や社会性を持ち、国際的な視野に立って健全な社会の発展に寄与することので きる人材を育成する。
- ・自主的・自発的精神を持ち、自らの課題に積極的に取り組み、問題解決を図っていくことので きる人間を育成する。
- ・社会生活に必要な基礎的知識や技術及び適正な判断力と実践力を身に付け、責任感と協調性に 富む人物を育成する。
- 各コースの主な活動・実績(平成26年度)

<健康スポーツコース>

- ・体育理論・健康科学(スポーツに関する科学的な知識やトレーニング方法について学び、実践 に活かす)
- スポーツ I ・ II (部活動と連動させた競技力向上のための取り組み)

<国際経済コース>

- · 実用英語検定合格者 2級1名 準2級15名 3級26名
- ・第31回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト熊本県予選 レシテーションの部 2年生1名出場、スピーチの部 2年生1名出場:優秀賞受賞
- ·熊本県高等学校英語暗唱大会 1年生1名出場:決勝進出
- ・サンアントニオ市との交換留学 インカーネートワード高校へ 2年生2名
- · 桂林市友好訪問団受入 2年生2名

<OA会計コース>

- ·外部講師招聘授業(日商簿記検定試験対策)
- · 土曜講座(日商簿記検定試験対策)
- ・熊本城お城まつりにおける商品販売実習

<経営情報コース>

- ・外部講師招聘授業 (ITパスポート試験対策)
- ・土曜講座(ITパスポート試験対策)
- ・熊本城お城まつりにおける商品販売実習
- 進路状況 (現役のみ実数)

進路	先				卒	業年	22年	23年	24年	25年	26年
国	公	<u> </u>		大	学	等	2	0	1	1	0
私	7/	•	大		学	等	46	45	51	50	46
短		期		大		学	7	6	5	8	8
高	等	看		護	学	校	5	6	4	4	4
専	修	各	種	学	校	等	66	73	66	71	65
進			学			計	126	130	127	134	123
就						職	44	43	57	37	52
そ	Ø	他		•	未	定	14	8	8	20	9
		合		計			184	181	192	191	184

○ 部活動

- ・文化部 英会話、ワープロ、パソコン、ライフサイエンス、ボランティア、簿記会計、吹奏楽、 書道同好会、
- ・体育部 ハンドボール、女子バレーボール、バスケットボール、サッカー、陸上、バドミントン、 野球、柔道、卓球、自転車競技、柔道同好会、剣道同好会、弓道同好会、水泳愛好会
- 部活動の主な実績(平成26年度)

<ハンドボール部>

- ・平成26年度全九州高校ハンドボール競技大会熊本県予選 優勝
- · 平成 2 6 年度熊本県高等学校総合体育大会 優勝
- ・平成26年度全九州高校ハンドボール競技大会 準優勝
- · 平成 2 6 年度全国高等学校総合体育大会 出場
- ・平成26年度九州ブロック国体 出場(8名選出)
- ・平成26年度全国高校ハンドボール選抜大会熊本県予選 男子:3位 女子:4位
- ・本校3年野村雄也が日本代表男子U-19に選出され、第6回男子ユースアジア選手権で3位に入賞し、第6回男子ユース世界選手権出場権を獲得

本校1年元松晃子が日本代表女子U-16に選出され、第18回日韓交流スポーツ親善事業に 出場

<陸上競技部>

- ・平成26年度熊本県高等学校総合体育大会男子5000m 優勝 2位、6位 男子3000mSC 優勝 男子800m 5位
- 平成 2 6 年度全国高等学校陸上競技対校選手権大会南九州地区予選大会男子 5 0 0 0 m 3 位 4 位
- ·平成26年度熊本県高校女子駅伝 7位、平成26年度熊本県高校男子駅伝 2位
- · 平成 2 6 年全九州高等学校駅伝大会総合 7 位(南九州地区代表獲得)
- · 平成 2 6 年全国高校男子駅伝大会出場

<自転車競技部>

- ・平成26年度全国高等学校総合体育大会自転車競技会 スクラッチレース 1位、チームスプリント6位
- ・平成26年度全九州高等学校体育大会自転車競技大会 チームスプリント 1位、スクラッチレース 7位、1kmタイムトライアル 8位
- · 平成 2 6 年度熊本県高等学校総合体育大会自転車競技大会

スプリント 2位・5位・6位、4km 速度競争 4位・5位・6位、1km タイムトライアル 1位

スクラッチレース $1位、3 km インディヴィデュアルパーシュート 5位 ポイントレース <math>4位 \cdot 5位$ 、ケイリン $1位 \cdot 3位 \cdot 4位 \cdot 6位$ 、チームスプリント 1位 ロードレース $1位 \cdot 2位$

<野球部>

- ・第134回九州地区高校野球熊本大会 ベスト16
- ・第62回NHK旗高等学校野球大会 ベスト8
- ・第96回全国高校野球選手権熊本大会 ベスト16
- ・第135回九州地区高校野球熊本大会 ベスト8
- ・熊本市内1年生大会 ベスト8

<吹奏楽部>

・第58回熊本県吹奏楽コンクール 高等学校Bパート 銅賞

<ボランティア部>

- ・第22回アフリカの子どもの日in Kumamoto実行委員、赤い羽根共同募金活動
- ・第18回ボランティア・スピリット 九州地区コミュニティ賞受賞
- ・城西小正門前挨拶運動(平成21年11月から月1回実施)
- ・ユニセフハンド・イン・ハンド(全国一斉年末募金活動)カレンダー募金
- ・白羊保育園ふれあいボランティア (平成21年11月から、毎週水曜日と金曜日の放課後に実施)
- ・ネパールへの書き損じはがき贈呈式(平成26年3月 千原台高校で実施)
- 平成26年度情報科の上級資格取得者数()は前年度人数
 - ・経済産業省 情報処理技術者試験(ITパスポート)5(5)人
 - ·日本商工会議所簿記検定試験 2級 7 (16)人
 - ・日本商工会議所簿記検定試験 3級 72 (74)人
 - ·全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験 1級 43 (32)人
- 教職員の研修(平成26年度実績)
 - ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校3校合同人権教育研修会
 - ・教務主任、進路指導、生徒指導、環境教育担当者研修、10年経験者研修等については、熊本 県教育委員会に依頼し、県立高等学校職員研修計画のもとで実施。

■ 熊本市立総合ビジネス専門学校



○ 学生数(平成27年5月1日)

	1年	2年	計
総合ビジネス科	67	64	131
0A経理科	7		7
計	74	64	138

○沿革

昭和24年 4月 熊本市立商業実務員養成所創設

昭和30年 4月 各種学校として認可

昭和31年 3月 熊本市宮内町に移転

昭和34年 4月 熊本市立実務商業学校と改称

昭和50年 4月 昼間部の学級編成を変更

昭和54年 4月 専修学校認可 熊本市立実務商業専門学校と改称

平成 3年 4月 総合ビジネス科(高卒2年制の専門課程)を設置し、現校舎に移転 開校と同時に熊本市立総合ビジネス専門学校と改称

平成 7年 1月 総合ビジネス科卒業生に「専門士」(商業実務専門課程)の称号の付与認可

平成 9年 7月 公開講座開始 (ワープロ・パソコン)

平成11年11月 創立50周年記念式典

平成12年 4月 経理科廃止

平成19年 4月 「総合ビジネス科(昼間)」経理ビジネスコース、経理情報コース、観光サービスコース、「OA経理科(夜間)」と改編

平成21年11月 創立60周年同窓会祝賀会

○ 教育目標

<総合ビジネス科 (修業期間 2年)>

- ・経理ビジネスコース: 高度の簿記会計科目を中心に学び、経理・総務・営業事務等を担当するための幅広く、高度なビジネス実務能力をもった人材を育成する。
- ・経理情報コース:簿記やビジネス実務とともに、高度なパソコン利用技術を学び、広いビジネス実務に適応できる事務処理能力をもった人材を育成する。
- ・観光・サービスコース:ホテル、旅行業などの科目に実習も取り入れ、観光・サービス業に 関する事務能力を高め、コンベンション都市を支える人材を育成する。

<OA経理科(修業期間1年 夜間)>

一般社会人を対象として、簿記会計、パソコン、ワープロ、電卓等の知識・技能を養う。

- 教職員の研修(平成26年度実績)
 - ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校3校合同人権教育研修会
- 進路状況(卒業年度の3月末現在)
 - 卒業生数

卒業年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
総合ビジネス科	66	67	58	66	63
OA経理科	9	5	10	8	11

• 業種別進路

卒業年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
建設業	3	3	2	7	0
製造業	8	1	17	9	2
運輸・通信業	8	3	3	0	7
卸売・小売業	5	12	8	14	13
金融・保険業	2	0	0	2	0
サービス業	25	24	23	20	34
その他	0	1	0	0	0
小 計	51	44	53	52	56
未 定	11	18	1	12	2
自己就職·進学他	4	5	4	2	3
合 計	66	67	58	66	61

・職種別進路(未定・自己就職・進学他を除く)

卒業年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
事務	39	33	39	39	30
営業・販売	4	2	5	2	8
技 能	3	0	1	0	0
サービス	5	8	7	4	16
その他	0	1	1	7	2
合 計	51	44	53	52	56

◆第二章 教育目標達成への取組 ~第2節 生きる力をはぐくむ学校教育の推進~

·就職內定率(%) (各年度3月31日現在)

卒業年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
総合ビジネス科	81. 0	71. 0	98. 1	81. 3	88. 1

(3月末現在のデータであるが、年度を越えても就職支援を行い、各年度ほぼ90%を超える。)

○ 最近の主な就職先一覧(過去5年間)

建設業	永伸、エース産業、大津建設工業、小城板金金属工業、皆楽園、木村建設、光進建設、こざき、 コスモホーム、松栄パナホーム熊本、多田産業、西日本システム建設、ミナミ冷設					
製造業	愛三熊本、阿蘇中央生コンクリート、上村エンタープライズ、ウルトラハウス、お菓子の香梅、 オジックテクノロジーズ、九州ショーワ、清永木工所、熊本シール工業、熊本ユシ工業、再春館製薬所、 三栄工業、塩山食品、シンエイ産業、ソリューション、ハーネス・イシハラ、バド・プレスト、ふくふく大成、 不二宮製作所、フュージョン、リンクライン					
運輸·通信業	九州旅客鉄道、熊本製粉ロジスティクス、熊本電鉄、サンワールド九州、JR 九州旅行、旅のよろこび、日本郵便、農協観光、フクワ物流、フレンドシップツアー、山一観光、旅行綜研、ロータス観光					
卸売·小売業	あまくさ、阿蘇中央薬局、ARROWS、植木青果市場、エーコープ熊本、えがお、大木商店、大嶌屋、おすそわけ村、岸工業九州、清田時計店、熊本トヨペット、ケイワード九州、ケーズホールディングス、三興バルブ継手、ジーユー、ジャパンイマジネーション、ジョイフル、SHIN-EI、新生堂、善徳丸建材、タケシタ調剤薬局、嶽本薬局、ドゥヨネザワ、東光石油、トヨタ L&F 熊本、トライアルカンパニー、ドラッグミユキ、南国殖産、西日本電材、日創建材、ネッツトヨタ熊本、ネッツトヨタ中九州、ノバラ、ハウディ、橋本屋、フクダ電子西部南販売、古荘本店、マナベインテリアハーツ、Misumi、むつみ企画					
金融•保険業	くまもと共済、西日本チケット					
サービス業	アートワーク、愛誠会、アズマシティ開発、アドルーム、アニス、天草地域医療センター、アンクル、インプラントセンター九州歯科診療所、植田観光、エース観光開発、エコポート九州、NTTドコモ九州熊本支店、MSS、奥の湯、尾場瀬税理士事務所、帯山中央病院、加藤神社、上熊本経営センター、カローラ熊本ライフビジネス、菊池観光ホテル、キャリアサポート、熊本計算センター、熊本厚生事業福祉会、熊本清掃社、熊本泌尿器科病院、熊本ホテルキャッスル、経営合理化研究所、ケイワード九州、彩巧堂、サウスポイント、JA阿蘇、JAかみましき、JA鹿本、JA熊本うき、JTBグローバルアシスタンス、JTB熊本リレーションセンター、柴田内科・柴田整形外科、JR九州ホテルズ、仁誠会クリニック、セドナエンタープライズ、大劇、第2さくら体育幼稚園、岱明幼稚園、田上事務所、トータルメディア開発研究所、東臣、トヨタレンタリース熊本、中原歯科クリニック、中村哲也税理士事務所、ナトーコンピュータ、ニチイ、にのみや歯科医院、ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ、ネオエンタープライズ、パインシステム、ひなた、ひらの歯科医院、ベアルートシステム、ホテルニューオータニ熊本、ホワイト歯科、牧野皮膚科医院、マツオカ法律事務所、松見内科クリニック、マリーゴールド、萬生会、三森循環器科呼吸器科病院、未来税務会計事務所、メルパルク、守田税理士事務所、ヤマイ、山内ユリ子税理士事務所、山鹿中央病院、優彩、ゆうしん、湯前木材事業協同組合、レ・デ・モ					
公務その他	氷川土地改良区					

○ 年度別資格得者数(該当年度の取得者の数字であり、既取得者は含まれていない)※OA経理科を含む

N and the second of the			n · ·	b : :	h : :	r · ·	→ r · ·
主催者及び試験名等		<i>t</i>	平成22年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度
日本商工会議所主催 簿記検定試験	2	級	28	46	31	20	10
	3	級	40	50	41	40	59
日本商工会議所主催 日商PC検定試験(データ活用)	2	級	2	2	_	_	
全国経理教育協会主催 簿記能力検定試験	上	級	1	0	0	0	0
※1級は、1級会計と1級工簿の両方に合格した者		級	26	25	16	23	5
		会計	26	25	16	23	5
	1級	工簿	47	50	47	37	35
	2	級	44	30	37	35	40
	3	級	12	12	8	11	25
全国経理教育協会主催 所得税法能力検定試験	1	級	_	1	_	_	_
	2	級	18	17	22	12	18
	3	級	28	_	36	31	31
全国経理教育協会主催 法人税法能力検定試験	2	級	11	18	2	12	0
	3	級	28	_	25	_	21
全国経理教育協会主催 消費税法能力検定試験	2	級	3	6		_	_
建設業振興基金主催 建設業経理士検定試験		級	18	12	10	17	14
全国旅行業協会主催 国内旅行業務取扱管理者試験		資格	5	10	6	6	6
日本旅行業協会主催 総合旅行業務取扱管理者試験	国家	資格	3	1	2	0	1
サーティファイ認定試験事務局主催 Word文書処理技能認定試験(平成25年度~)	1	級	5	2	_	78	64
	2	級	61	56	54	58	58
(平成24年度までは、他の主催団体試験の取得者数)	3	級	79	69	76	68	75
サーティファイ認定試験事務局主催	1	級	1	_	_	52	58
Excel表計算処理技能認定試験(平成25年度~)	2	級	61	57	58	66	58
(平成24年度までは、他の主催団体試験の取得者数)	3	級	78	70	77	73	70
サーティファイ認定試験事務局主催	1	級	12	12	12	59	58
Accessビジネスデータベース技能認定試験	2	級	52	62	59	62	58
	3	級	66	67	59	65	62
サーティファイ主催 PowerPointプレゼンテーション技能認定試	上	級	_	_	_	_	34
サーティファイ主催 Illustratorクリエータ能力認定試験	3	級	11	11	_	_	_
実務技能検定協会主催 秘書技能検定試験 (~平成22年度)	2	級	24		_		
AMARIEN RELATION () PAGE X	3	級	1	_	_	_	_
実務技能検定協会主催 ビジネス実務マナー技能検定試験(平成22年度~)	2	級	_	43	35	47	32
大切以配換に関立工催 CV 小八大切、/ 以配換にPMX (FAGGT 及)	3	級	57	55	56	38	61
実務技能検定協会主催 ビジネス文書技能検定試験	2	級	50	52	30	34	21
大切以IEI灰に伽玄工性 ロッパハス盲以IEI灰にPN吹	3	級	65	53	64	44	69
日本英語檢定協会主催 実用英語技能檢定試験	2		3	1	1	0	1
1 个大和快是圆去工催 - 大川大阳及能快是PM大		2級	5	9	7	9	12
全国語学ビジネス観光教育協会主催 観光英語検定試験				2	5	2	4
王国前子にシイク観兀教目励云主惟 観兀央前快ル武装		級如	1				
同歌レジショコン ーセ・シュン切る子段 TADIA IDニュー	3	級	10	19	9	10	17
国際ビジネスコミュニケーション協会主催 TOEIC IPテスト		以上	1	2	0	0	0
日本電卓技能検定協会主催 電卓技能検定試験		段	1	_	_	_	_
		段	3	2	1	_	1
		段	_	1	1	2	_
	1	級	40	39	39	36	16
	2	級	30	14	20	15	9
	3	級	44	44	40	25	61
診療報酬算定能力審査会主催 医科医療事務検定試験	2	級	_	_	_	_	_
	3	級	31	_	14	16	17
日本ホテル・レストランサービス技能検定協会主催 レストランサービス技能検定試験	3	級	5	3	7	2	8
情報処理推進機構主催 ITパスポート試験	国家	資格	5	9	4	13	9

※表中の『一』の表示は、受験者なしを示す。